

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	アイユー		
○保護者評価実施期間	令和8年3月2日		～ 令和8年 3月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	令和8年3月13日		～ 令和8年3月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月26日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設が充実している。利用する子ども一人に対する利用可能面積が広く、個別の課題に応じた環境を提供できる。	基本的な教具類以外は常時設置にせず、個別に応じて環境調整をするようにしている。	利用する子どもが増えていくにつれて、個別の課題が違う。子どもの課題に応じて環境を整備するために、段々と教具類が増えていく。多くの教具を整理して、適切な時に、適切な教具や教材を提供できるように管理していきたい。
2	フォーマルアセスメント器具やICT機器が充実している。指導員もICT機器の使用に慣れていて、利用する子どもに適した視覚的支援を行える。	検査もICT機器も手段であることを忘れず、何の目的のために使用するのかを職員全体で共有していくようにしている。	新しいICTの教材やアプリの情報に敏感になり、利用する子どもに適したものを提供できるように研修・研鑽に励みたい。
3	利用する子どもへの療育の目的や内容などを、毎日丁寧に情報共有している。個別療育が中心になるので、指導する者に任せきりにならないようにしている。	日々、療育のための教材作りや記録などの作成に時間を要する。指導員が個別療育に慣れていないためでもあるが、忙しいながらも情報共有する時間を確保できるようにしている。	利用する子どもの数が増えていくと、どうしても時間的な余裕がなくなり、一人一人の子どもについて情報共有する時間が短くなる。いかに効率的に情報共有したり、相談する時間を確保することを考えていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所としての方向性や取組が安定していない。	新規事業であるため、実際に取組を始める中で、軌道修正が出てくる。保護者や地域のニーズも、十分に把握ができていない。	利用している子どもの様子や保護者の意見に耳を傾け、地域のニーズがどこにあるのかを情報収集しながら考えていきたい。個別に執着せず、可能なことは変更しながら方向性を決めていけるように職員全体で考えていきたい。
2	個別療育を中心としているため、利用する目の前の子供に適した内容を提供する必要があるが、指導員がまだ経験不足で、内容を考えたり、教材を作るのに時間がかかる。	個別指導を初めて行う指導員がほとんどなので、目の前の子どもを観察し、保護者のニーズも取り入れながら支援・指導を考えると、指導内容や教材作りに時間がかかる。	打ち合わせの時間を工夫して効率的に進めることで時間を捻出していくようにする。、指導員自らの力を高めていけるような内部・外部研修の提供・参加を促していくようにする。
3	利用している子どもが集団の中や日常生活の中でどこまで発揮できているのかの検証が不足している。	個別療育が中心なので、療育の中で身につけた力を日常生活や集団の中で発揮できているのかの検証が難しい。	定期的な小集団の取組を行い、事業所内で子どもの集団の中での様子を観察して、療育に活かせるようにしていく。日常生活については保護者に観察していただき、情報を得るようにしていく。学校生活の様子は、学校との連携を強め、情報を得られるような取組をすすめる必要を感じている。